

街の活気に触れよう！全国お祭り特集（2023 年 | 納涼版）

大地の芽吹きや生命力が感じられる春祭り、恵みや実りに感謝する秋祭りもいいけれど、やっぱり、お祭りは夏！というみなさんも多いのではないのでしょうか。JTB、トリップアドバイザーが発表した今年の夏の旅行動向（*）を見ると、夏休みやお盆の人出は昨年比で大幅アップ、海外からの旅行客も増え、コロナ禍前の完全回復とまではいかないものの昨年に比べたらかなりの人出になるようです。文字通り夏本番に向けて急ピッチで準備が進む、各地のお祭りから、今回は岩手県盛岡市の「盛岡さんさ踊り」、京都府京都市の「姉小路行灯会」、東京都杉並区の「東京高円寺阿波おどり」の 3 つを紹介します。

これら 3 つの地域で行われるお祭りの運営元に、現在の状況と開催への意気込みを取材しました。気になるお祭りは、今からでも旅行先の検討に加えてくださいね。

*

JTB『JTB 調べ！2023 年夏休み（7 月 15 日～8 月 31 日）人気方面ランキング』

https://www.jtbcorp.jp/jp/newsroom/2023/05/25_01_jtb-ranking.html

トリップアドバイザー『トリップアドバイザー、2023 年夏の旅行動向を調査』

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000616.000001853.html>

.....

岩手県盛岡市 | 天下一の太鼓と華麗な踊りが織りなす「響宴の輪」



2022年の「太鼓大パレード」の様子©盛岡さんさ踊り実行委員会

「最も大人数による和太鼓の同時演奏者数（Largest Japanese drum ensemble）」のレコードホルダーとしてギネス世界記録に登録されているお祭りの団体を、みなさんはご存知でしょうか。2014 年 6 月、岩手県営運動公園陸上競技場を舞台に県内外から有志が集まり、3,437 人が 5 分以上同じビートを打ち続けて見事

記録達成となりました。東日本大震災後に岩手・盛岡の元気を世界に発信しようと記録に挑戦し、これを束ねたのが「盛岡さんさ踊り実行委員会」です。記録を達成するほどの人数・太鼓を集める作業は困難を極めました。また、人数・太鼓が集まったとしても、3,000 人を超える人々が長時間一斉に音を合わせるのは至難の技。この記録は、和太鼓によるグループの一体感では名実とも天下一といえるでしょう。

さて、この演奏を実際に目にする機会となるお祭りが、今年 8 月 1 日～4 日に盛岡市中央通を主会場として開催される「盛岡さんさ踊り」です。太鼓や笛といった鳴り物と踊り手で構成された各種団体が参加し、それぞれの趣向で「統一さんさ踊り」の演目 2 番「七夕くずし」、3 番「栄夜差踊り」、4 番「福呼踊り」、5 番「吉希翔」をパレード形式で披露。最終日の 8 月 4 日には、先に述べた世界記録に関連する特別プログラムとして、各参加団体からの太鼓演奏者が集結する「世界一の太鼓大パレード」も開催されるなど、4 日間にわたって盛岡の夏の夜がにぎやかに彩られます。コロナ禍前の 2019 年開催（第 42 回）では、4 日間の開催でのべ 253 団体、人出は 149 万 1 千人だったというこのお祭りは、コロナ禍のあおりを受けた 2020 年と 2021 年を開催中止としたものの、2022 年（第 45 回）は縮小規模での開催を決行。この回では、「久しぶりに盛岡の夏が楽しめた」、「さんさ踊りの本来の良さが感じられた」と参加者・観覧者双方からの反響が多く寄せられたそうです。



2022年の「ミスさんさ踊り・さんさ太鼓連」のパレードの様子©盛岡さんさ踊り実行委員会



2022年の「伝統さんさ踊り競演会」の様子©盛岡さんさ踊り実行委員会

「さんさ踊り」とはそもそも、南部藩政時代から盛岡一帯の地域住民に親しまれてきた各種の盆踊りや謡いであり、その装束やお囃子は地域色を反映して、今日までバリエーション豊かに継承されています。「伝統さんさ踊り」と総称されるこれら各地の踊りを手本に「誰でも踊れるように」とアレンジ・創作されたのが「統一さんさ踊り」であり、

一般参加団体は前述した 2 番から 4 番のいずれか（もしくは複合）を練習して、お祭り当日のパレードに臨みます。「盛岡さんさ踊り」は、各地域で大切に伝えられてきた伝統の踊りと、みんなが輪になれる現代風の踊りとが共生する、懐の深いお祭りなのです。

46 回目となる今年は、盛岡青年会議所による花車パレードや輪踊りといった個人でも参加できる自由参加枠が復活、過去水準に戻るのはまだ先としながら、「来て、観て、魅せられ、加わるさんさ」のキャッチフレーズに沿って通常規模開催の準備を進めていると実行委

員会はいいます。今年 1 月に米ニューヨークタイムズ紙の電子版に掲載された「2023 年に行くべき 52 カ所」のランキングで、ロンドンに次いで 2 番目に紹介され、旅行先としての注目度が急上昇中の盛岡市。「伝統さんさ踊り」を観に訪れるもよし、「統一さんさ踊り」の輪に入るもよし、夏の気分を一緒に盛上げに出かけましょう。

お祭り DATA

・盛岡さんさ踊り（岩手県盛岡市）／第 46 回

開催日程：2023 年 8 月 1 日（火）～4 日（金）

会場：盛岡市中央通（岩手県公会堂前～映画館通り）および盛岡市民文化ホール「マリオス」

見どころ：【1】2023 ミスさんさ・さんさ太鼓連、伝統さんさ踊り団体、一般参加団体が次々に行進する大パレード（中央通／各日 18 時～21 時）、【2】各種団体の振付や装束などをじっくり鑑賞できる「伝統さんさ踊り競演会」（盛岡市民文化ホール／各日 13 時～16 時）

* 有料観覧席の事前販売あり（公式サイトを参照）

* 個人参加可能なプログラムは各日の青年会議所花車パレードと、パレード後の「輪踊り」「大輪踊り」。各プログラムへ飛び入り参加も可能だが、16 時から事前練習会を行い、そのまま当日のパレードに参加する「おへれんせ集団」（要事前予約・先着順）か、17 時から当日参加可能な練習会（予約不要・参加無料）で指導を受けてから参加するとより楽しめそう

* 「盛岡さんさ踊り」参加方法：<https://sansaodori.jp/join/>

* お祭り公式サイト：<https://sansaodori.jp/>

.....

京都府京都市 | 京都の町衆の「暮らし」や「営み」を肌を感じる行灯会



「新風館」の北側で、夕暮れ時から「姉小路通」を照らす行灯会。姉小路界隈を考える会

「商業のための建築・環境」というカテゴリで 2021 年度グッドデザイン賞を受賞した「新風館」は、京都市における目抜き通りの 1 つ「烏丸通」を西側に面するホテル・店舗・映画館の複合施設です。旧京都中央電話局（京都市指定・登録文化財第 1 号）の外観を残しつつ、再々開発によって周囲のストリートとも回遊性を高めて、新たなにぎわい拠点として生

まれ変わりました。この建物の北側を西端として、東端となる寺町通まで 700m ほどの落ち

着いた町並み「姉小路通」が続いています。8 月下旬の夕暮れ時、この「姉小路通」を行灯の柔らかな灯りが照らし出す、そんなお祭りが「姉小路行灯会（あねやこうじあんどんえ）」です。

新しい「新風館」の開発に参画したデザイナーの 1 人でもある隈研吾氏の談によると、「姉小路通」を「京都らしい」と表現しています。事実、西端には 1804（文化元）年創業の亀末廣（京菓子店）、東端には 1663（寛文 3）年創業の鳩居堂（香・和文具専門店）が店を構え、道中には竹内栖鳳や富岡鉄斎、魯山人など文人墨客に所縁のある老舗の商店や旅館が点在。京都の伝統を育む職人の工房や町家が数多くあり、北側に並行する「御池通」の景観とはまた異なる京都の一面を「姉小路通」に見つけることができるでしょう。



富岡鉄斎書「彩雲堂」看板ライトアップ©姉小路界限を考える会



「姉小路行灯会」の開幕を告げる京都御池中学校マーチング©姉小路界限を考える会

「姉小路行灯会」の始まりは今から 26 年前の 1997（平成 9）年に遡り、当初は「灯りでむすぶ姉小路界限」といいました。当時の町内最古から古い行灯を寄贈されたことをきっかけに、「姉小路通」に接する複数の町の住民が集う「姉小路界限を考える会（以下、考える会）」が企画したライトアップイベントが今日に続いています。「姉小路行灯会」は町の風習でもある「地藏盆」とは別行事ではあるものの、その前夜に開催されることから子どもの成長や町内の安全を願ったり、先祖や故人を偲んだり、揺らぐ灯りの時間を住民は思い思いに過ごすそうです。

「姉小路行灯会」は「考える会」が主催し、地域の建築協定範囲内で行われます。この協定は、行政のトップダウンではなく住民自身が江戸時代の町式目（自治の取り決め）を参考に策定した 6 項目の「姉小路界限町式目」を基本理念とし、2002（平成 14）年に初めて締結されたもの。この「姉小路界限地区建築協定」の締結は 2004（平成 16）年の景観法制定以

前のことであり、京都市の都市計画における“まちづくり”の先例となったといえます。20 年の節目となった 2022（令和 4）年の協定更新には、車屋町通まで範囲を拡大して東西 570m をカバー。商業地域にあって国内最大規模の建築協定になったと“考える会”の事務局長 谷口さんは胸を張ります。この 570m の路側帯に 600 基もの行灯が並ぶ「姉小路行灯会」、町衆の思いや願いのこもったこの路地へ、残暑の夕涼みに出かけてみませんか。

お祭り DATA

・姉小路行灯会（京都府京都市）／第 26 回

開催日程：2023 年 8 月 19 日（土）17 時ごろ～20 時

会場：京都市姉小路通

見どころ：【1】京都市立中京もえぎ幼稚園、京都市立京都御池中学校、姉小路界限のみなさんによる手描き行灯 600 基の町並みライトアップ、【2】京都御池中学校マーチング（17 時～）【2】京都市内でも珍しい老舗の木彫看板、【3】地域のまちづくりを象徴して 24 時間灯り続けるガス灯

* 行灯に灯すろうそくは姉小路界限 50 店舗の賞品抽選付きで販売中

1 セット 1,000 円（ろうそく 5 本＋賞品抽選権、遠方販売可）。

販売締切：2023 年 8 月 17 日（木）、公開抽選：8 月 18 日（金）

景品：トップ賞 30,000 円のペア食事券ほか界限店舗からの協賛約 200 品

* ろうそくの遠方購入は事務局へ直接連絡：tani@aneyakouji.jp（事務局長・谷口氏）

* 「姉小路界限を考える会」公式サイト：http://www.aneyakouji.jp/

.....

東京都杉並区 | 「地域」と「連」と「観客」が高円寺に熱狂の渦を生む



4年ぶりの街路公演で暑い夏をさらにヒートアップ◎東京高円寺阿波おどり

東京 23 区のなかでも杉並区へ観光目的で訪れる人は少ないかもしれません。北に練馬区、南に世田谷区、西に武蔵野市・三鷹市と隣接する杉並区は住宅都市として発展してきた側面が強く、関東都市部を知らない人にとっては漠然としたイメージなのではないでしょうか。しかし、そんな杉並区にあって年に 1 回、100 万人を超える観客を集める熱狂的なお祭りがあります。それが「東京高円寺阿波おどり」です。

高円寺といえば、東京でも昭和のサブカルチャーを牽引する街の 1 つであり、近年では中央線カルチャーの一角を担うディープな街として注目を集めています。こうした個性的な魅力を支えているのが、JR 高円寺駅を中心に広がる多彩な商店街にあるといっても過言ではないでしょう。13 の商店街からなる高円寺商店街連合会の公式キャラク



ター「サイケ・デリーさん」からも、それが色濃く伝わってきます。おじさんのようなつぶらな瞳のヒゲ面で頭にターバンを巻き、足袋を履いて阿波おどりのステップを踏んだ姿をしているこのキャラが象徴するように、商店街と阿波おどりとは、高円寺を語る上で切っても切れない間柄といえそうです。



「東京高円寺阿波おどり」は 1957（昭和 32）年、現在の高円寺パル商店街振興組合に青年部が結成されたことをきっかけに、「まあ、なんとかなるだろう。やってみようじゃないか」という勢いそのまま「高円寺ばか踊り」という形で始まりました。当初は見聞きした踊りや装束で本場の阿波おどりとはかけ離れたものだったそうですが、やがて本物の阿

波おどりを求めて東京で最も古い阿波おどり連である徳島県人会「木場連（現・天恵連）」の指導を請い、1963（昭和 38）年開催の第 7 回大会に“高円寺阿波おどり”として改称されました。その後、“高円寺阿波おどり”を「地域」と「連」と「観客」の三位一体で支えていくことを目的とした NPO 法人 東京高円寺阿波おどり振興協会が 2004（平成 16）年に設立され、現在に至ります。この協会のもと、商店街だけでなく関連自治会や踊り手を中心とした高円寺阿波おどり連協会、ボランティアや賛助会員などが活動の担い手となり、コロナ禍前の第 63 回大会では 2 日間の会期中のべ 164 連、観客動員数約 101 万人という規模を誇る、関東屈指の阿波おどり大会までに成長しました。

2020 年は完全中止、2021 年は無観客による屋内舞台公演（オンライン配信）、2022 年は

観客を入れての屋内舞台公演、そして今回が 2019（令和元）年に続く、第 64 回大会となります。コロナ禍の影響を受けたこの 3 年間、各所で運営経験者が交代になったり、近隣居住者の入れ替わりが進んだりと悩みは多かったようですが、ようやく 4 年ぶりの完全復活で、この大会運営にかける意気込みが強く伝わってきます。協会によると現時点で予定されている参加連はのべ 155 連で、ほぼ前大会の規模での開催を想定して準備を進めているそう。夏を締めくくる 8 月 4 週目の週末は、ぜひ高円寺の阿波おどりに気合を入れて出かけましょう！

お祭り DATA

・東京高円寺阿波おどり（東京都杉並区）／第 64 回

開催日程：2023 年 8 月 26 日（土）27 日（日）

会場：高円寺駅周辺の各種街路、およびセシオン杉並ホール（各日 2 部制、第 1 部 11 時 30 分開演、第 2 部 14 時開演）、座・高円寺 1（各日 2 部制、第 1 部 12 時開演、第 2 部 14 時 30 分開演）

見どころ：【1】各種街路に設定された 8 つの演舞場（各日 17 時～20 時）を舞台に競われる各連による演舞【2】ショッピングや散歩をしながらでも観覧できる早い時間の街路演舞（各商店街の地元連が散発的に舞う：各日 13 時～16 時）【3】じっくりと連の踊りを鑑賞できる 2 つの舞台公演

* 街路公演には演舞場に併せて 8 つの特別観覧席が設けられます

特別観覧席の入場券は大会の担い手として協賛した支援者への配布のみ

協賛金の申込みは 7 月 3 日から「高円寺 MATSURI チケットセンター」へ

http://www.koenji-awaodori.com/category2/special_seat.html

* 舞台公演は以下の 2 開催です

1：「おどれ高円寺セシオン 2023」（場所：セシオン杉並ホール）

2：「2023 夏の座・高円寺阿波おどり」（場所：座・高円寺 1）

チケット詳細は公式サイトで確認

* お祭り公式サイト：<http://www.koenji-awaodori.com/>

.....

藩政から地域ごとに受け継がれてきた地踊り（伝統さんさ）とは別に、誰もが踊れる“さんさ”を「統一さんさ」として練り上げ、これを両立させているのが「盛岡さんさ踊り」のスゴさだと取材から感じました。装束や太鼓などの鳴り物は盛岡市内の各店で揃えられすし、「盛岡さんさ踊り」は「盛岡市」のファンが広がる仕組みとして、しっかり機能しているように思います。なるほど、海外から注目されるのも納得ですね。

京都市・姉小路通りの「姉小路行灯会」は、静かで落ち着いた暮らしや脈々と続く営みを後世まで守りたいという住民自治の心意気を体現したタウンイベントといってもよいでしょう。昨年拡張した建築協定の範囲には、風俗店や社交場・娯楽場、コンビニのほか、家主が同居していないワンルームマンションは1軒もなく、過去20年、1度の違反者もありません。人の縁を場所と時間でつなぐ、住む場所は自分で守る、そんな思いが行灯の火に込められているようです。

「高円寺ばか踊り」として始まった「東京高円寺阿波おどり」ですが、本物を求めて研鑽を詰んだ結果、正統スタイルを継承する連、バラエティ豊かな連が参集する大きなお祭りとなっています。運営であるNPO団体はその性格上、阿波おどりの普及啓蒙や友好都市との交流のため、普段から国内外との交流を重ねているそう。これらもまた、「東京高円寺阿波おどり」が大きく成長してきた理由の1つといえそうです。

お祭りを観る・参加するというのは、各地の良さを知るための手がかりになります。この夏は非日常を体験したり、終の住まいを探したり、さまざまな目的をもってその土地、そのお祭りを巡ってみてはいかがでしょうか。

*免責事項：掲載内容は2023年7月16日時点の情報です。最新情報は各公式サイトや旅行サイトで事前確認をお願いします。